

研究者氏名：青木 勢津子

調査・活動テーマ：自然の中で、子どもの自主性を重んじた保育が社会にもたらすもの

調査・活動の目的

「森のようちえんの真価が見える化する。」
野外で活動することがほとんどなくなった子どもたちを、外に連れ出すことによって何がかわるか？森のようちえんの理念 子どもたちの「自主性」「協調性」「創造性(想像性)」を高めるために見守る待つ保育をすることによって子どもたちがどうかわるか？記述したりアンケート調査を実施する。※別紙アンケート参照

受動的な立場に置かれていることが多く、自己肯定感が低くなっている日本の子ども達、幼児期に非認知能力を高める。コミュニケーションの練習をする場を作ることが大切と考えた。

調査や活動の取組内容および達成状況・成果内容

- 大興寺の里山を中心とした野外保育の活動
火曜～金曜：9時半～14時半 3・4歳児
火曜・金曜：10時～13時 2歳児
夏休み小学生プログラム(2週間)
：火おこし、ロープ結び、陶芸、キャンプファイヤーなど
夏休みに突然参加した小学生より、毎日来ている幼児組の方が落ち着いていてできることも多い。小学生やボランティアに来ていた大学生の方は怪我をする。
- 絵本や育児本を出版されている横浜のりんごの木
の代表 柴田愛子さんの講演会実施
100名ほどの来場者はあったものの、実際に育児に悩むお母さんに愛子さんの声を届けたいと思うようになる。
→半田のCラボにて同じ意思を持つ榊原まみかさんと何ができるだろうと打ち合わせ
- ワールドカフェをやろう！ということで、名前を「ピアッツァ デル パッラーレ」とし、

- 1回目 8月27日(月)クラシティ1F
「あなたがこどもだったらどんな保育がいいですか？」
- 2回目 10月22日(月)知多市市民活動センター「人間性」
- 3回目 1月12日(土)知多市市民活動センター「中動性」
- 4回目 2月4日(月)美浜まちラボ chabs「中動性②」

人数は少ないが、毎回深い話ができる。

- 森のようちえんあいち県ネットワークの交流会開催
- 自由保育や自然保育に関する気になる催しに参加する。
 - 「沈黙の春」「センス オブ ワンダー」の訳者 上遠恵子さんの講演会に参加
 - 自然を活用した保育・幼児教育自治体勉強会に参加
 - 森のようちえん全国フォーラムに参加
トエック(伊勢達郎氏)指導の仕方
ねこのピート・えがない絵本の訳者(大友剛氏)
たまりば(西野博之氏)
最後のワールドカフェで今後のキーワードとなる「中動性」に出会う

優れた効果・成果があがった点

- ・活動が週一から毎日の日常型に変わったことで、子どもたちは、自然の中で、穏やかにそこにいるようになった。自分で自分の力量を図りながら行動するため、大きなけがは、ほとんどない。これは、全国的に見て、毎日活動しているところに見られる傾向だった。
- ・森の中はいいことばかりではない。不快に会うこ

とで、自分の身を変化させることを学ぶ。

- ・子どもたちが、山小屋にいるおじさんたちと会話ができるようになり、子どもたちが来るのを楽しみにしてくれるようになり、火おこしやのこぎりの使い方などを教えて下さるようになる。
- ・縦割り保育をしているため、双方が刺激を受け合い良い方向に向かう。
- ・けんかは大人がジャッジをしないが、子ども同士で折り合いをつけることができるようになる。
- ・子どもミーティングをすることによって、自分の気持ちを話せるようになった。この子達が大きくなれば、自分たちで自治ができる。
- ・親子で参加しているグループは、初めに母親が変わる。穏やかになり、園児だけでなく、御主人や他の兄妹にも寛容になる。
→下の子ができるケースもよくある。子どもたちは快食快眠快便となり、母親も料理上手になっていく。野外の良さや厳しさに気が付く。

森のようちえん活動が、毎日になり、里山を整備してくださっている山法師さんやいつも使用させていただいている炭焼き小屋の工房にいる方が、火おこしやのこぎりなどの工具の使い方を教えてくれたり、畑の農産物を収穫させて下さったりすることによって、初めは、怪我をしたらどうするのか？とひやひやものであったが、毎日楽しみに待っていてくれるようになった。子どもたちにも、子どもや親以外の世代の人たちと関わることで、コミュニケーションの取り方がうまくなっていった。子ども同士では、けんかも奨励しているため、トラブルが絶えない時もあったが、「自分の本当の気持ちを相手に伝えること。」

「お友達が悲しむことはしない。」を待ち続けることによって、今では、どの子も自信に満ち溢れ、仲間意識も育ち、やりたいことがたくさんある子に育っている。山羊やミツバチを育てている仲間たち、自然農をする仲間からは多大な刺激をうけ、今年は味噌だけでなく、醤油も仕込み3月には搾ります。ここにいる子どもたちは、里山や自然、地球を愛せる人になっ

ていると思います。何があっても自分でどうにかする子どもたちが育っていけば、強い社会ができると思います。

委嘱期間終了後の今後の展望

- 森のようちえんの継続
- 森のようちえん以外の個を大切にす保育や教育にも引き続き研究発表する機会を設けていきたい。古くは、モンテッソーリ、(イタリア) シュタイナー(ドイツ) 新しくは、イエナプラン(オランダ) レッジョエミリア(イタリア) みんなの学校、トエック(ヒーリングレクリエーション)、たまりば(日本)等ワークショップ
- 「子どもの人権に関すること」
- 大人向けのピアツツア デル パッラーレ「中動カフェ」ダイアログの会の開催

本研究テーマであるこの保育が社会にもたらすもの世の中は、ITやAIでますます便利になっていき、瞬時に世界ともつながれる時代になってきた。にもかかわらず、毎日のように起こる幼児虐待、いじめで自殺する子ども達、未曾有の災害、いったいこの先日本はどうなってしまうのか？森のようちえんフォーラムに来ていた落合恵子さんなどのゲストたちが口々に、「森のようちえんは、最後の望みです。」と言ってくださった。

子どもたちこそ明るい未来を作れる人です。どうか子どもたちの周りにセンス オブ ワンダーを感じられる大人が増えますように！

あおりんこ 自己肯定感アンケート

自然保育及び自主性を重んじた保育と自己肯定感の因果関係について調べるアンケートです。
 いただきました回答は統計的に処理をしますので、個人の情報が公開されることは一切ありません。なお、統計的に分析した結果は、日本福祉大学が文部科学省から助成を受けているCOC事業の一環として、市民研究員である青木が年度末に報告をする予定となっています。
 よろしくをお願いします。

問1 お子さまについてお尋ねします。 (1) 性別は? 1. 男の子 2. 女の子 (2) 年齢は? ____歳

問2 お子さまの様子についてお尋ねします。 該当するものに○印をつけてください。

	とても そう思う	そう思う	どちらで もない	あまり 思わない	全く 思わない
1. 自分のことが好きである。	5	4	3	2	1
2. 自分に自信がある。	5	4	3	2	1
3. いつも楽しそうである。	5	4	3	2	1
4. 好奇心旺盛である（やりたいことがたくさんある）。	5	4	3	2	1
5. やりたいことをやりたいと大人に伝えることができる。	5	4	3	2	1
6. やりたいことを継続してやることができる。	5	4	3	2	1
7. いやなことはやらない。	5	4	3	2	1
8. 大人の目を気にする方である。	5	4	3	2	1
9. けんかしたことがある。	5	4	3	2	1
10. 小さい子をかわいがる。	5	4	3	2	1
11. 同じくらいの子とよく遊ぶ。	5	4	3	2	1
12. 引っ込み思案（内弁慶）である。	5	4	3	2	1
13. 人の話をよく聞く。	5	4	3	2	1
14. 自分の意見をはっきりとすることができる。	5	4	3	2	1
15. 困ったことが相談できる。	5	4	3	2	1
16. 初めてのことに慎重であり、失敗することを嫌がる。	5	4	3	2	1
17. 誰とでも仲良くできる。	5	4	3	2	1
18. 人から強く言われると、しょげたり、泣いたり、怒ったりする。	5	4	3	2	1
19. 都合が悪くなると、知らないとか忘れたという。	5	4	3	2	1
20. どろんこ遊びが好きである。	5	4	3	2	1
21. 手や服が汚れることを気にする。	5	4	3	2	1
22. 食べ物の好き嫌いがある。	5	4	3	2	1
23. お手伝いが好きである。	5	4	3	2	1
24. 虫を捕まえたり、動物に触れあったりしたことがある。	はい			いいえ	
25. 火を見たことがある。	はい			いいえ	
26. 朝日が昇るところや夕日が沈むところを見たことがある。	はい			いいえ	
27. 海や川で遊んだことがある。	はい			いいえ	
28. 満天の星空を見たことがある。	はい			いいえ	

あおりんこアンケート結果

Before

After

